

VOL.20

こんにちは、(公社)ひょうご観光本部ツーリズムプロデューサーの古田菜穂子です。
2025年も終わろうとしています。みなさま、お元気でしょうか？

2026年はどんな年になっていくのでしょうか？観光業界でも、いろいろなことが言われていますが、世界が少々きな臭くなっている中で、平和産業としての観光に携わっている私たちができることは何なのか？それを見極めていきたいですね。

今年、私は、昨年より兵庫県に出張する機会がかなり増えました。特に後半は、兵庫県の観光戦略の中間見直しの座長として来年度、そして2030年から50年を見据えた目指すべき兵庫の観光の姿、それらを実現するために具体的に何をしたらよいかを県庁の施策として紐づけて、さまざまな立ち位置で観光事業に携わっている専門委員のみなさんの意見をお聞きしながら、観光戦略をまとめ上げていきました。

これから観光に求められていく大切なキーワードは、今までも度々講演会などでもお伝えしているのですが、「安心、安全」そして「信頼」に裏付けられた「あたたかいおもてなし」です。もう少し具体的にいうと、それらが担保された心も身体も、精神（Body & Mind & Sprit）も満足でき、「旅に出る前よりも元気になる」旅体験です。

さらには、旅や観光をする人だけではなく、迎える地域の人々も幸福感を得られること。つまりは、観光客も観光事業者も、双方向で良くなること＝ウェルネス、ウェルビーイングになることが重要です。昔の日本でしばしば使われた「旅の恥はかき捨て」なんてことは、もはやとんでもない、ということです。要するに旅先では、無責任な振る舞いは御法度で、地域に貢献できる「責任ある旅人なろう」ということです。これは、UNWTO（国連世界観光機構）でも全世界に発出されている言葉です。

これらが推進されれば自ずと、これからの旅スタイル（観光）は、迎える側の立場から言うなら、「リピーター」重視の施策になるということです。そして、旅のリピート率を上げるためには、訪問者側の立場で言えば、何度訪れても新鮮で、感動できる出会いとしての体験型の観光スタイルの提供が必要です。その体験は、ある意味そこでしか味わえない「日常的」な「非日常体験」でもあるのです。

迎える側のみなさんは、普段、見落としがちなの自分の居場所の「日常」の魅力を再認識してください。それは、とても興味深い「非日常」でもあります。その場所で、そこでしか味わえない人との出会いや、空気感、食、ものづくり、言葉の響き、文化体験などは、どんなにAIが進化しても、人が介在しないと提供できないものなのです。

もちろん、テーマパークのように、常に一定の質を担保したエンターテインメントを求める人々もいますが、それらは今後のデジタル技術の中での進化の中で、いわゆる「旅体験」とは別方向に行くと考えています。例えばディズニーランドのキャストが全部、ロボットになっていったとしたら、それらはいわゆる「旅」や「観光」とは違うものになっていくことでしょう。私たちが今、目指していくのは、それではない地

域ならでの、日本ならでの本物体験としてのテロワールとしての魅力をいかに、「人が介在して」伝えていくか、それも持続可能な形で、です。

まさに次年度の兵庫県は、かなり本気で、そういった旅や観光を目指します。兵庫ならでのサステナブルで、ウェルネスなツーリズムをひっさげて、ディステイネーションづくりにチャレンジし、国内外にアピールしていきます。そんな観光戦略が、委員会のみなさんや、県庁で観光推進に携わるみなさんとともに出来たと思っています。

ぜひとも、これからも、一緒に楽しみながら、汗をかき、みんなで笑顔になっていきましょう。今年も1年間、大変、お世話になりました。では、みなさま、お身体に留意しつつ、良いお年をお迎えくださいませ。そして世界が平和になりますように。